

CASDICTV

小林尚

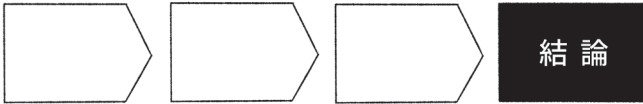
SHOKOBYASHI

開成流

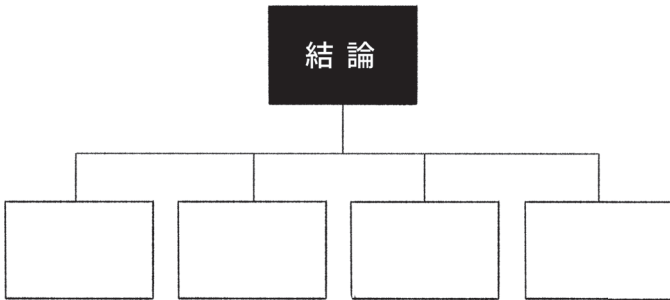
ロジカル勉強法

LOGICAL  
LEARNING  
METHODS

## ストーリーロジック



## ストラクチャーロジック



この2つを覚えるのだ

## プロローグ

### 開成流ロジカル勉強法ってなに？

数ある勉強法の本の中から本書を手にとっていただき、誠にありがとうございます。お礼ついでに早速みなさんに質問ですが、「勉強」と聞いて、みなさんはどのようなことを思い浮かべるでしょうか。

多くの方にとって勉強とは「覚える（暗記する）」ことと「問題を解く」ことだと思えます。もちろんそれは間違っています。今まで学校教育や受験勉強といった領域で重視されてきたのは、基本となる知識を覚えたうえで問題・課題を解けることであり、これはなにかを学ぶうえで欠かせないものです。

しかし大学生や社会人の方にとって、この「勉強」では不十分であることは否めません。社会に出れば、参考書やペーパーテストはむしろ存在せず、リアルな人とのコミュニケーションの中でインプット・アウトプットをしていかなければなりません。そして近年英語教育の4技能化が叫ばれ、2020年度から大学入学共通テスト（英語に関しては民間の4技能試験）が導入され

る中、もはやそれは大学生や大人に限った話ではなく、高校生やそれ以下の学年の方にとっても他人事ではない時代がやってきているのです。

4 技能とは「読む」「聞く」「書く」「話す」によつて構成されることはみなさんもご存じでしょう。「読む」「聞く」というのはインプットの方法であり、「書く」「話す」というのはアウトプットの方法です。

インプットとアウトプットという言葉を使うと、覚えた(インプットした)ことで問題を解く(アウトプットすること)をイメージすると思いますが、実はそれだけに限りません。アウトプットすることで、思考が整理されたり、次のインプットにつながったりすることもあります。みなさんも学生のころにまとめノートや暗記用のメモをつくったことがあると思いますが、それらはアウトプットによる記憶の整理、もしくは情報を理解するための準備としてよい例です。

そしてこの4技能は巷では英語学習のシーンで語られることが多いですが、実際は英語学習に限ったものではありません。「読む」「聞く」「書く」「話す」というのは私たちのコミュニケーションに必須の要素であり、特定の言語・科目にのみ存在するものではないのです。

国語でも数学でも専門知識でも、この4つの力が勉強において重要なカギになることは論を俟ちません。そしてこの**4つの力を総動員してなにかを学ぶことが、実際の社会で役立つ「勉強」**

**であることに他ならない**と私は考えます。

世の中には優れた勉強法の著作がたくさん存在します。私自身、受験をしてきた人間、そして教育業界に生きている人間として多くの方の著作を読んできました。その中には勉強法として非常に有効なノウハウがいくつも存在することも事実です。

しかし「読む」「聞く」「書く」「話す」といった4技能に着目し、真に社会で使える力を養うための勉強法に言及している本はまだ少数であり、読み手のみなさんはなんとなくしか4技能を意識できなかったことも事実でしょう。

実はこれを理解いただき、4技能を意識しながら既存の勉強法の著作で学ぶだけでも、みなさんにとって非常にメリットがあるに違いはありません。しかし本書では、この4技能という要素で勉強法を語るだけではなく、さらに「ロジカル」という要素を盛り込んでいます。

「ロジカル」とか「ロジック」という言葉は今でこそビジネスシーンをはじめ、多くの人が触れるようになった言葉ですが、その実態はあまり知られていません。

もちろんそのまま英語を日本語として翻訳すれば「論理」や「道理」といった意味なのですが、それだけでは説明に成功したとは言えません。ではその正体はなにかと言うと、「ある程度多くの

人が理解できるように、説明を順序立て、分解すること」に他なりません。

つまり「ロジカルな勉強法」とは奇抜で特殊な技術や、今まで誰も知らなかったような大発見に基づくものではありません。その代わり多くの人が理解・実践でき、そして身に付ければ一生使える技術を指しています。

ここまででこの本のコンセプトである「4技能×ロジック」は理解いただけたと思いますが、日本ではまだ日本語における4技能教育、および論理的な思考を鍛える教育が盛んであるとは言えません。そこにいわば一石を投じようとする私に、その資格があるのでしょいか。

私は高校受験で開成高校に入学し、現役で東京大学文科I類に入学、法学部を卒業しました。卒業後はコンサルティング会社で鍛えられ、現在では自分の会社を経営しています(2017年からはYouTubeでも活動をしているので、YouTubeをきっかけに本書をお読みいただいている方もいらっしやるかもしれません)。このように書くと、やはり東京大学に注目いただくことが多いのですが、私の勉強法の根本が形成されたのは開成高校時代、弁論部に在籍していた時代でした。

開成高校の弁論部では、主にディベートという競技に取り組んでいました。ディベートでは与

えられたテーマ(論題)に対し、肯定側・否定側の両面から議論を形成します。ディベートという「話す」部分にばかり注目されますが、議論の土台・証拠を形成するための資料を「読む」力、対戦相手の意見・反論を「聞く」力、そして自分たちの主張を伝えるための立論(台本)を「書く」力、すなわち4技能すべてを要求される競技です。そして、これらは単純に耳触りがいいとか、綺麗な言葉が並べられているといった表面的な部分で評価されるのではなく、「論理的に肯定側・否定側のどちらの主張がより正しいか」という厳しいロジックのもとでジャッジ(審判)に精査されます。

勘のいい読者の方であれば既に理解に至っていると思いますが、この弁論部の時代に私はロジックや4技能の基礎を学び、これが今日でもあらゆることを学習することの幹を形成しています。

当然高校生の私がこれらを完璧に使いこなして大学受験や大学の学習に取り組めたかといえばそうではなく、多くの改善点があったと今でも思います。

しかし社会人となり、まさにロジカルシンキングという言葉を最も標榜している業界であるコンサルティング会社に入社して鍛えられ、自身の経営する会社で教育に携わる中で、このコンセプトは飛躍的に進化しました。

少し昔話が過ぎましたが、本書の目的はすなわち、単に4技能を活用した勉強法を語るのではなく、**4技能を活用した「ロジカル」な勉強法**を語ることです。より合理的に4技能を活用し、実際に使える勉強法をみなさんに伝えることが本書の使命です。

ノウハウを伝える以上、前述の通りそれは一生モノであるべきです。一度自転車に乗れるようになれば大概何年か乗らなくても乗り方を忘れないように、勉強法も一度身に付けてしまえば一生使えるものであるべきでしょう。みなさんもそこに付け焼刃的な浅い技術を求めているわけではないと思います。そしてノウハウである以上、私にはわかりやすく伝える義務があり、みなさんには読むだけでなく、実践して身に付けていただく必要があります。ぜひ本書の内容を実践し、一生モノの勉強法を会得してください。

さあ、それでは始めましょう！



# 目次

## プロローグ

開成流ロジカル勉強法ってなに？

003

## 第1章

# 可能性を4倍にする勉強法

① 日本の大学生・社会人はとにかく勉強しない

016

② 勉強の習慣は1日1時間からOK

019

③ 4技能を活用して効率を飛躍させる

023

④ 4技能×ロジカル勉強法

026

⑤ ロジックの種類は2つだけ

029

⑥ 「読む」↓手軽な読書から始めよ

033

⑦ 「聞く」↓実は重要な勉強法

036

⑧ 「書く」↓「必ず伝わる」を会得せよ

039

## 第2章

# ロジカルに「読む」

- ⑨ 「話す」↓最強のインプット法
- ⑩ 勉強法の王道

### column ① 1対1暗記術

- ① 「読む」ことが、すべての始まり 050
- ② 安易な音読から構造的理解へ 053
- ③ 速読は幻想である 056
- ④ 筆者の主張——メッセージの存在 059
- ⑤ 筆者の主張——メッセージとはなにか？ 063
- ⑥ 筆者の主張——メッセージを捉える 066
- ⑦ ストーリーロジックを捉える 075
- ⑧ ストラクチャーロジックを捉える 083
- ⑨ 文章の「目印」を発見する 089
- ⑩ 図表を読み取る 094
- ⑪ 軸を捉え、特徴を掴む 100

## 第3章

# ロジカルに「聞く」

- ⑫ ロジカルに「読む」の実践

column ② 虫食い暗記術

107 105

- ① 「聞く」は非効率なのか？

110

- ② 「聞く」勉強の使い途

113

- ③ 「聞く」勉強の危険性

117

- ④ ロジカルに「聞く」なら準備がすべて

121

- ⑤ 80:20の法則の応用

126

- ⑥ 適切な答えが返ってくる問い

129

- ⑦ 捨てるべき情報・捨てるべき情報

137

- ⑧ 聞きながらメモをとる方法

141

- ⑨ 隙間時間と映像の活用

146

- ⑩ ロジカルに「聞く」の実践

149

column ③ 勉強範囲で楽をしない

151

## 第4章 ロジカルに「書く」

- ① ペンは剣よりも強し……………154
- ② いつ「書く」のか？……………156
- ③ 作品ではなく、パーツをつくれ……………159
- ④ 2つの「書く」を身に付ける……………162
- ⑤ 文章から箇条書きへ……………165
- ⑥ 最強の箇条書きを身に付ける……………169
- ⑦ パワポ型「書く技術」——1スライド1テーマ……………175
- ⑧ 図形の意味を決めておく……………178
- ⑨ 2つのストーリーを俯瞰する……………182
- ⑩ PCか？ 手書きか？……………185
- ⑪ ロジカルに「書く」の実践……………189

### column ④ スケジュールのつくり方……………

191

## 第5章

# ロジカルに「話す」

- ① 「話す」ことが勉強になるのか？ ..... 194
- ② 予備校講師はなぜ授業が上手いのか？ ..... 196
- ③ 弁論部も「話す」のは難しい ..... 199
- ④ 「話す」勉強の目的 ..... 202
- ⑤ ロジカルな話の上手さとは？ ..... 205
- ⑥ 3分間トーク法 ..... 209
- ⑦ アンサーファースト。まず答えから述べる ..... 212
- ⑧ 2Dトークを習得せよ ..... 215
- ⑨ 録音・録画の活用 ..... 220
- ⑩ ロジカルに「話す」の実践 ..... 223

## 第6章 勉強とは夢である

- ① なぜ「開成流」なのか……………226
- ② ロジックだけでは、人は動かない……………229
- ③ 弱者のためのロジック……………232
- ④ 最終的には「質より量」……………235
- ⑤ 最強の一夜漬け……………238
- ⑥ 勉強で身に付けた型は仕事の基礎になる……………242
- ⑦ 知識は忘れても、習慣は忘れない……………245
- ⑧ お金ではなく、「力」を貯める……………248
- ⑨ 勉強に夢を持つ……………251

## エピソード

本物の勉強技術を……………